

床暖房（低温）対応フローリング材の施工

1. 下地の施工

- コンクリートを含め高含水率の下地は反りをはじめとして、フローリングに悪影響を与えますので、施工面が完全に乾燥状態であるかをご確認下さい。特に湿気の多い地域での使用には防水、耐湿対策に充分考慮して使用して下さい。
- 根太材は45mm角以上の乾燥材を使用し、約300mmピッチにフローリングと直交する様に施工して下さい。
- 床暖房熱源機器の上には必ず12mm以上の耐水合板（F☆☆☆☆、含水率8%以下）を接着剤・釘併用で捨貼りして下さい。弊社、床暖房対応フローリングを熱源機器に直接触れさせる施工は絶対に行わないで下さい。

2. 接着剤塗布

- 接着剤は耐熱性が要求されますので、ウレタン系接着剤をご使用下さい。また、改正建築基準法F☆☆☆☆取得商品をご使用下さい。（木工用ボンドなどの水性エマルジョン系接着剤の使用は絶対に止めて下さい。）
推奨品：コニシ（株） KU928R、KU928C・（株）オーシカ UR-20等
- 接着剤が床表面についた場合は速やかに灯油等を含ませた布で拭き取って下さい。
（事前に対応策を接着剤メーカーにお問い合わせすることをおすすめ致します。）

3. フローリング張り

- 施工前の長時間の放置はおやめ下さい。
- 本製品は天然木を使用しており、1枚ごとの色柄・木目・フィンガーの長さが異なります。施工前に仮並べして調和をとってから張上げて下さい。
- 床表面温度が25～28℃程度の低温床暖房対応商品です。温度の上げすぎはフローリング材の割れ・反り・変色・過度の収縮等を引き起こす可能性がありますのでご注意下さい。
- フローリングの張り込みに際しては季節的な要因による伸縮を考慮して施工して下さい。また、壁際は10mm程度必ず隙間をとって下さい。
- フローリングのセンター出しは必ず床暖房機器の根太上とし、全ての木口接合部が根太上に来るように割り付けて下さい。また、継ぎ手は交互にずらして下さい。
- 根太への釘止は股釘等で本根太まで確実に届く長さとし、ウレタン系接着剤を必ず併用して下さい。釘は雄突部分の付根に完全に釘頭が沈み込むように45度角で打って下さい。尚、釘打ちは根太部と重なる部分のみで行い、7箇所で行って下さい。
- フローリングを実に入れる際、雄突に当て木を当ててそれを叩いて入れて下さい。直接叩くと割れの原因となります。
- 壁際は10mm程度必ず隙間をとって下さい。最後に幅木を取り付けて完了となります。（幅木は後幅木で施工して下さい。）
- 張り込み後は表面保護の為、直ちに防湿養生シートを全面に敷いて養生テープで止めて下さい。養生テープはフローリング材に直接張らないで下さい。また、表面の塗膜を傷つけないように砂などに充分配慮して養生して下さい。塗料・水などをこぼしたら速やかに取除いて下さい。

4. その他注意点 床暖房用フローリングに関して

- 床暖房対応フローリング材以外は使用しないで下さい。
- 床暖房使用時は室内温度を40～60%に保つようご配慮下さい。過度の乾燥は、フローリング材の割れ・反り・変色・過度の収縮等を引き起こす可能性があります。
- ご利用の床暖房機器によっては弊社商品が御利用頂けない場合もございます。詳しくは床暖房機器メーカーにお問合せ下さい。
- 6面アクリルウレタン塗装品は厳密な含水率管理のもと製造されています。切使用の場合は、湿気の進入を防ぐ為に切断後に直ぐに必ず木口用タッチアップ剤（シーラー 推奨品：玄々化学 GC-63P 製品出荷時にある程度ご用意しています。）を十分に塗布してご使用下さい。
- 弊社床暖房用艶消しフローリング（6面アクリルウレタン塗装品）の糸面及び実部分は表面程に艶消しが充分になされていません。これは、最大限に防湿性を高める為に行っています。この糸面の艶ですが、完成時のワックス掛けの際、艶消しのワックスをご使用になることによって糸面の艶は目立たなくなります。ワックスの選別の際にはご配慮承るようお願い申し上げます。

5. 床暖房無垢フローリングの特性について

- 床暖房無垢フローリングは床暖房使用中に水分を放出し、収縮することで隙間が生じることがあります。夏の休止時には吸湿して膨張しある程度目立たなくなります。
- 床暖房無垢フローリングは湿湿度変化に伴う伸縮により小さな床鳴が発生する場合があります。